
家庭医療科

家庭医として地域医療に携わりたいと希望する初期研修医のために、1・2年次は、総合内科の基礎力をじっくり養う内科臨床研修を中心に、家庭医に必要な選択科目（外科、産婦人科、精神科、麻酔科、救急）のローテーション研修を組み合わせ、そして3年次には、小児科、内科(3ヶ月)と地域医療に必要な基礎力を養うために、診療所での家庭医研修を行う研修プログラムです。

<指導医> 一戸 由美子、佐藤 幹也、近藤 秀一、塩田 正喜(指導責任者)、吉津 みさき、
建石 綾子、藤田 麻衣子

<一般目標>

卒後研修の早い段階から、プライマリ・ケアの実践を通し、プライマリ・ケアの位置づけと機能を理解し、将来、地域医療の実践や連携に役立てられるようになる。また、診療所での外来および在宅医療の実践を通して、家庭医療の専門性について理解し、家庭医療が社会の中で果たす役割を考え、家庭医として診療するために必要な知識・技術・態度・価値観を学ぶ。

<行動目標>

- ① 家庭医療の専門性(患者中心の医療、家族志向型のケア、地域包括プライマリ・ケア)を理解する
- ② 家庭医療に必要な全人的なアプローチ法(身体的・心理的・社会的・文化的アプローチ)を身につける
- ③ 病診連携、すなわち、各科専門医の専門性を理解・尊重し、連携体制のもとで患者の診療にあたること
ができる
- ④ 診療所での外来診療を通して、系統的な医療面接・身体診察方法を修得し、Common Problem/Disease
に的確に対応する臨床能力を身につける
- ⑤ 訪問診療(在宅医療)、在宅緩和ケアを通して、患者とその家族のニーズに対して、効果的・効率的な医
療支援を行うことができる
- ⑥ 家族ケア(Family-Oriented Care の概念、アプローチ法、スキル)について学習し、実践できる
- ⑦ EBM(Evidence-Based Medicine)とNBM(Narrative-Based Medicine)に基づいた解決方法を理解し、日常
診療の場で実践できる
- ⑧ 地域医療に携わる職種(訪問看護師、ケアマネジャー、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど)と多職種
連携を行いチーム医療ができる
- ⑨ 地域医療に関する介護・福祉・保健制度を理解し、地域の医療福祉資源を把握し活用できる。また、ヘル
ス・プロモーション活動(地域の疾病予防・健康増進活動など)への参加を経験する
- ⑩ 医療倫理(医療倫理の知識を習得し、それに基づいて自らの行動規範を考える。Informed Consent を実
践できる)
- ⑪ 貴重・問題症例に関して学会報告ができる

<週間スケジュール>

(例) 河北サテライトクリニック(家庭医療科)

	月	火	水	木	金	土
朝	カンファレンス	ミーティング	カンファレンス	カンファレンス		
午前	外来	外来	訪問	外来		訪問
午後	訪問	外来	外来 (小児予防接種)	訪問		外来
夕方	勉強会	勉強会	ケースカンファレンス	勉強会		カルテチェック

<評価>

- ① 各科研修終了時に指導医がオンライン卒後臨床研修評価システム (EPOC) に入力する。
- ② 各科研修終了時に看護部が「看護部評価表」に記載する。



家庭医療学センターのスタッフミーティング風景